目指す学校像	夢のある生き生きとした学校 学校教育目標 自ら学ぶ 認め合う 大きな夢をもつ
--------	--

重点目標	1 生徒一人ひとりに寄り添った生徒指導・教育相談を行い、心理的安全性を高める。 2 1人1台端末を活用した主体的、対話的で深い学びによる授業実践を行う。 3 学校、家庭、地域が連携し、地域とともにある学校づくりを行う。 4 教職員の心理的安全性を高め、学び続ける教職員集団の育成に努める。
------	---

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学校自己評価							学校運営協議会による評価	
年度目標							実施日令和7年2月18日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等
1	<現状> ○生徒は、落ち着いて授業に取り組んでいる。 ○調査・整理・まとめ・発表する活動に意欲的に取り組む生徒が多い。 <課題> ○全国学力・学習状況調査やさいたま市学習状況調査において、どの教科も基礎問題・活用問題の正答率に二極化傾向が見られる。 ○粘り強く取り組むことを苦手とする生徒もあり、達成感や充実感を味わえるようにすることが課題である。	・主体的に学び、考える生徒の育成に向けた校内体制の充実	・各種調査等から自校の課題を共有し、学力向上カウンセリング研修等を行い、実態を把握と授業改善を行う。 ・アクティブラーニング型の授業を実施し、学びの指標を意識した授業改善を行う。 ・学習や学校行事等で振り返る場面を作り、主体的対話的な学びの推進、探究的な学びの推進を進める。 ・教員による小学校への授業参観を行い、小中一貫教育を推進する。	・保護者アンケートで、学習に関する項目で肯定的な評価を90%以上となったか。 ・学びの指標(生徒対象)の学習課題を踏まえて自分が解決することを自分で決めているが、2.9以上になったか。	・保護者のアンケートで、学校は分りやすい授業に努めているかの項目に対して、肯定的な評価は、84.6%であった。 ・学びの指標(生徒対象)の学習課題を踏まえて自分が解決することを自分で決めているは、3.1であった。	A	・授業参観等を通じて、生徒や授業の様子を見ていただくともに、保護者会資料等への学習について情報発信を行っていく。 ・生徒の考えを尊重しながら、指導にあたることを重視した。生徒に寄り添った指導を継続して取り組んでいく。	・体育祭における教職員と生徒との一体感が見られた。生徒は成長していると感じる。 ・大谷中の先生方は、大谷中の生徒を大切にしている印象を受ける。
		・ICTを活用した対話的で深い学びによる授業実践の構築	・生徒の学び、教職員の経験をスクールダッシュボードの活用による可視化を目指しながら、非認知能力の育成に向けた授業を実践する。 ・1人1台端末を有効的に活用できるように、エンジェリストを活用し、教職員の授業実践等を共有する研修を実施し、生徒の学習への主体性を高め、自ら学習の最適化を進め、家庭学習等で活用できるようにする。	・生徒アンケートを実施し、主体的な学びにおける項目の肯定的な評価を80%以上となったか。	・生徒アンケートを実施し、主体的な学びにおける項目の肯定的な評価は86.9%であった。	A	・生徒の活躍できる場をさらに増やすことで自己肯定感を高め、学習だけでなく、生活面にもつながるように取り組んでいく。	
2	<現状> ○素直で、落ち着いて生活をしている生徒が多い。 ○生徒、保護者のアンケートで、学校からの報告、相談、適切な対応については、約90%であり肯定的な意見が多い。 <課題> ○生徒、保護者のアンケートにおいて、ルールを守っているというA評価が20%台であり、一層の指導体制の構築を行う。 ○生徒の自主的に取り組む場面が多くなく、教師主導で取り組むことが多い。	・規律意識を持ち、協調性を持った生徒育成に向けた校内体制の充実	・生徒一人ひとりに寄り添った生徒指導・教育相談を行い、心理的安全性を高めるため、情報共有と迅速な対応を行う。 ・スクールダッシュボード、スタディサプリ、Solaℓ-M等を活用した個別最適な学びを実践し、取組状況を確認する。 ・全校三者面談の実施、保護者会等の実施、だより等の発行により保護者との信頼関係の構築に努める。	・生徒、保護者アンケートで、ルール遵守、あいさつ等の項目で肯定的評価を85%以上となったか。 ・長欠生徒の前年比10%減少したか。 ・全校三者面談の実施、保護者会等の実施、だより等の発行を計画的に進められたか。	・生徒アンケートの肯定的評価でルール遵守77.3%、あいさつ等の項目70.1%であった。 ・保護者アンケートの肯定的評価でルール遵守86.3%、あいさつ等の項目81.7%であった。 ・長欠生徒の前年比20%減少した。 ・全校三者面談の実施、保護者会等の実施、学校だより等の発行を年間計画的通り実施した。	A	・生徒による生活のきまりの見直しを実施したことで、日常生活の振り返りも行うことが出来た。引き続き、当事者意識を持たせる指導、具体的な取り組みを考えさせる指導を行っていく。	・登下校指導の際に、生徒たちはよくあいさつを行っている。生徒は地域に出るときと家庭の中の姿は変わるものではないか。 ・地域の中では、元気にあいさつしてくれる生徒が多い。 ・さわやか相談員とSolaℓの一むとの連携等を密にして、様々な場面で教職員の声掛けがあるとよい。
		・自ら考え、行動し自己表現できる生徒の育成に向けた学校行事等の充実	・生徒会活動、学校行事、部活動等で、主体的に取り組む場面を設定し、振り返る場面をつくる。 ・OJTにより、各主任による経験の浅い教員への助言等を行う。 ・生徒の規範意識の醸成、目標周知、具体的な実践の確認のため運営委員によるアンケートの実施を行う。	・生徒アンケートで、学校生活が快適である項目の肯定的評価を80%以上となったか。 ・生徒の主体的に取り組める場面を設定し、振り返る場面を作ることができたか。	・生徒アンケートで、学校生活が快適である項目の肯定的評価を84.1%であった。	A	・生徒に寄り添った指導、保護者等との連携をより一層行うことで、生徒一人ひとりのペースに合わせた学校生活になるように取り組んでいく。	
3	<現状> ○学校運営協議会において、生徒のことを考えての熟議が行われていた。 ○保護者が学校に対して、協力的である。 <課題> ○学校運営協議会の活動について周知に至っていない。 ○コミュニティ・スクールとしての活動が少ない。	・学校、家庭、地域が連携し、ともにある学校づくり。	・学校公開や活動記録を公開し、保護者会等で学校教育への理解を得る。 ・学校運営協議会と協働して、地域交流における生徒の活躍の場を発掘し、生徒の参加を促し、地域の学校としての認知を高める。 ・学校だより、学校HPを活用し学校の取組内容について積極的に情報発信を行う。	・開示、情報発信における評価項目で、保護者・地域のアンケートで肯定的回答60%以上となったか。	・開示、情報発信における評価項目で、保護者のアンケートで肯定的回答91.4%であった。 ・開示、情報発信における評価項目で、地域のアンケートで肯定的回答88.8%であった。	A	・掲示物の工夫、安心メールの配信、だより等をによる情報を継続して取り組んでいく。より便利な機能をもつアプリ等の導入に向けて取り組んでいく。	・学校の様子が分かるため、学校だよりのA3版を継続してほしい。 ・未来くるワーク体験が地域で体験できる素晴らしい活動である。 ・避難所運営訓練や地域のイベント等へ生徒の参加率は低いので、七里親子フェスティバル等地域行事において、生徒の積極的な参加をお願いしたい。
		・未来の地域の担い手の育成に向けた取組の充実	・チャレンジスクールとの連携を密にして、地域の人材の発掘を行う。 ・本校PTAとの連携、校区小学校PTA等の情報収集等を行い、生徒と協働的な活動の場の発掘を行う。	・生徒の地域活動、地域との協働への参加率を5%となったか。	・生徒の地域との協働では、チャレンジスクール登録数、避難所運営訓練参加者をあわせると参加率は5%であった。	A	・生徒の活躍できる機会をPTA、地域の方々からの情報を収集し、発信していく。	
4	<現状> ○業務が多忙であり、在校時間が長い教職員がいる。 ○生徒に寄り添い対応する教員が多い。 <課題> ○悉皆研修以外の参加については、少なく、時間が確保できていない。 ○具体的な業務改善に至っておらず、事務的なことを含め、時間がかかるものが多い。	・教職員の心理的安全性を高める業務改善の実施	・毎月の在校時間を確認し、業務の遂行状況の確認及び在校時間調査の活用により教職員の健康状態を把握する。 ・会議のペーパーレス化、効率化等を教職員から募集する等による量的改善、質的向上的業務改善を目指す。 ・教職員のメンタルヘルスケアのため、面談、ストレスチェックや長時間在職者の医師による面接指導を活用しながら支援を行い働きやすい職場づくりを進める。	・業務改善等の項目において、教職員のアンケートにおいて、肯定的な意見の70%以上となったか。 ・働きやすい職場であるとの項目において、肯定的な意見の70%以上となったか。	・教職員のアンケートにおいて、業務改善の進捗は肯定的な意見、52%であった。 ・働きやすい職場であるの項目において、肯定的な評価は80%であった。	B	・教職員の多忙感や負担感を減らすため、話し合い等を進め、時間的、物理的、心理的安全性を高める取り組みを行い、実践可能なものをすぐに取り入れていく。	・業務改善について、前年度の比較があると分かりやすい。 ・業務改善は、どの学校でも進んでいる。教職員の認識の違いもあるのではないかと。
		・教職員の資質向上に向けた研修等の充実	・教職員自らの強みと弱みを確認しあい、キャリアnavi、研修履歴及び教職員プラットフォームを活用した目標設定と的確な受講奨励を行い、教員としての資質、授業力を向上させる。面談、授業参観等を行い、指導・助言を行いながら、各研修の成果を校内研修で共有する。 ・テキストを活用し、職務に関する研修を行い、ハラスメントの苦情及び教職員事故を根絶に向けて取り組む。	・研修等の項目において、教職員のアンケートにおいて、肯定的な意見の70%以上となったか。	・教職員のアンケートにおいて、研修の参加のしやすさの肯定的な評価は76%であった。	A	・教員としての資質・授業力技能の向上の研修において、校内で設定した研修の機会だけでなく、研修会等に参加できる環境づくりを継続して取り組んでいく。	